

令和 8 年度 学校 経営 案

1 学校経営の基調

- (1) 法令に示された学校教育の目的・目標や県・地区・市教育行政の重点等を踏まえ、将来の確かな展望に立った学校経営を行う。
- (2) 学校創立 134 年の歴史と伝統を踏まえ、児童・保護者や地域の実情に即し、人権教育を教育活動のベース（基盤）に据え、人権尊重の精神に基づいた学校教育を推進する。

2 本校教育の理念

- (1) 「問い」を創り出し、確かな学力を身に付ける教育
 学びへの意欲を高め、児童が「なぜ？」という問いを持ち、自ら解決の見通しを立てる学習者主体の授業づくりに努める。
- (2) 「挑み」を支え、たくましく生き抜く力を育てる教育
 失敗を恐れず、夢や希望を持って目標に向かい、スモールステップで最後までやり遂げるたくましい心身の育成を図る。
- (3) 「響き合う」心を育み、一人一人を大事にする教育
 人権尊重の立場に立ち、挨拶と返事で心をつなぎ、互いの良さを認め合い高め合う、共感的な人間関係の育成に努める。
- (4) 「明日も来たい学校」を創造する相似形の教育
 子供と教師が共に育つ「相似形」の学び舎として、自己の成長を実感し、児童・職員・保護者・地域にとって学校が安心できる場所となるよう努める。

3 学校経営の方針

- (1) 本校の歴史と伝統を創造的に継承し、知・徳・体の調和のとれた「問い、挑み、響き合う」実践力のある子供を育み、落ち着いた風格のある学校を目指す。
- (2) 「地域とともにある学校」を目指し、コミュニティ・スクールを推進するとともに、「地域の宝」として子供を育む温かな連携を強化する。
- (3) 全職員が「チーム生福」として、「どうすれば？」と授業を究め、自ら学び続ける姿を子供に示し、相互信頼・協働により教育目標の達成に努める。
- (4) 学校の説明責任を果たし、子供、保護者、地域の人々に信頼され、誇りにされる「楽しさいっぱい 笑顔いっぱいの生福小学校」を創り上げる。

4 学校教育目標

めざす学校像：楽しさいっぱい 笑顔いっぱいの生福小学校



学校教育目標：問い、挑み、響き合う 明日も来たい学校
 ～子供と教師が共に育つ「相似形」の学び舎～

校訓：あかるく かしこく たくましく

区分	【問い】（知）自ら学び、深く考える子	【挑み】（体・心）粘り強く、やり遂げる子	【響き合う】（徳）互いを認め、礼儀を重んじる子
児童の姿 (めざす姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ？」を大切に課題を見つける ・自分の言葉で「問い」を書く ・自学の型を身に付け、自走する 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れず目標に挑戦する ・スモールステップで継続する ・一校一運動で体力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・先手挨拶・元気な返事をする ・「はじめ」のスイッチを入れる ・友達の良さを認め、つなげる
職員の姿 (相似形)	<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」のある授業を究める ・子供に委ねる・待つ指導 ・ICTを文房具として使いこなす 	<ul style="list-style-type: none"> ・情熱を持って新しい事に挑む ・挑戦を価値付け、伴走する ・「I Action I Try」の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔と真心で子供に接する ・同僚と高め合い、協働する ・人権尊重の精神を基盤に置く
家庭の役割 (支え)	<ul style="list-style-type: none"> ・「どう思った？」と傾聴する ・家庭学習の環境を整える ・「メディアストップ9」の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やっごらん」と背中を押す ・規則正しい生活（早寝早起き） ・結果よりプロセスを褒める 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・返事の範を家庭で見せる ・公共のルールや礼儀を教える ・学校の取組を肯定的に伝える
地域の協力 (見守り)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のプロとして知恵を提供する ・「生福の宝」を共に育む ・放課後の学びを見守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事での挑戦の場を作る ・伝統芸能や行事の継承する ・子供の頑張りに声をかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の宝」として温かく接する ・見守り活動により安全を確保する ・多世代交流で豊かな心を育む

5 本校の教育課題

(1) 自ら学びを創り出す力の不足（問い：知）

- 学習の「自分事化」：「学ぶことが自分の将来に不可欠である」という実感が乏しく、受動的な学習態度が見られる。
- 自学のスキルの未習得：「勉強の仕方がわからない」児童がおり、家庭と連携した自律的な学習習慣の確立が急務である。
- 思考の深化：基礎的な学力は定着しつつあるが、課題に対して「なぜ？」と問いを立て、多角的に省察を深める力が不足している。

(2) 困難に立ち向かう気力と挑戦意欲（挑み：体・心）

- 「挑む」経験の不足：失敗を恐れて途中で諦めてしまう傾向があり、挑戦することの素晴らしさや達成感を味わう機会を意図的に創出する必要がある。
- 継続する力の育成：目標に向かって「継続は力なり」を実践する粘り強さが弱く、スモールステップによる成功体験の積み重ね方が課題である。
- 自己有用感の向上：自分の可能性を信じ、有言実行で物事に取り組む「生福っ子魂」の育成が求められる。

(3) 社会性と「ケジメ」のある人間関係（響き合う：徳）

- 「自分と他者」の区別の欠如：自分中心になりがちな面があり、「先生と児童」「授業中と休み時間」といった場に応じた「ケジメ」のスイッチの切り替えを徹底する必要がある。
- 対人関係の質的向上：相手を思いやる気遣いや、周囲の状況を察する力が十分ではなく、明るい挨拶・元気な返事を基盤とした、互いの良さを認め合う感性を育む必要がある。
- 環境と愛着の再構築：家庭環境や親との関わりに課題を抱える児童もおり、学校が「安心できる居場所」として機能し、自他の存在を無条件に受け入れられる心の土台作りが不可欠である。

6 本年度の重点目標

(1) 頭を鍛える「問い」：自ら学び、深く考える「知」の育成

- 「問い」のルールの確立と授業改善：毎時間、児童が「今日の問い（学習課題）」を自らの言葉でノートに記述する場を設定し、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- 個別最適な学びと ICT 活用：タブレット型パソコン等の ICT 機器や習熟度別問題を効果的に活用し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立てを工夫する。
- 自学の「型」の習得と家庭学習の充実：学年段階に応じた家庭学習の進め方を指導し、自ら計画を立てる力を養うとともに、「家庭学習の手引き」を活用して家庭と連携する。
- 複式学級指導の素地づくり：子供に委ねる場や自己選択・自己決定の場を設定し、基礎的・基本的な知識・技能とともに思考力・判断力・表現力を育成する。

(2) 心を鍛える「響き合う」：互いを認め、礼儀を重んじる「徳」の育成

- 「先手挨拶・元気な返事」の徹底：相手より先に目を見て挨拶し、名前を呼ばれたら「はい」と返事をする習慣を確立して心をつなぐ。
- 「けじめ」のスイッチと支持的風土：チャイム前着席、立腰、言葉遣いの使い分けを徹底し、時と場の区別を意識させるとともに、M o m（見つめる・思いをめぐらす・向き合う）を推進する。
- 発達支持的生徒指導と教育相談：いじめ・不登校等の未然防止に努め、教育相談の充実や関係機関（SC・SSW）との連携により、児童の居場所と絆を育む。
- 感性を磨く読書活動：個人目標達成 100%を目指し、親子読書や読書タイムを通じて豊かな心を育む。

(3) 体を鍛える「挑み」：粘り強く、最後までやり遂げる「体・心」の育成

- 挑戦支援とスモールステップの設定：算数の習熟度や運動記録などの小さな「達成」をグラフ化や表彰等で可視化し、継続する意欲を高める。
- 「失敗」を歓迎する校風：「失敗は挑戦の証」と価値付け、途中で諦めそうな児童への「あと一歩」の励ましを全校で徹底する。
- 教科体育の充実と「一校一運動」：運動量を確保し、なわとびや早朝ランニング、チャレンジかごしま等の取組を通して運動好きな児童を育成する。
- 基本的な生活習慣の確立と情報モラル：家庭と連携した「早ね・早起き・朝ごはん」運動や「メディアストップ9」を推進する。
- 保健安全・給食指導：治療率 100%を目標とした健康診断後の徹底対応や、危機予測能力（KYT）の育成、食育を推進する。

(4) 小中一貫教育及びコミュニティ・スクール（地域とともにある学校づくり）

- 学校運営協議会を核とした連携：各種団体との連携や地域人材の活用を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。
- 地域を元気にする取組：地域やPTA 種目を取り入れた運動会の実施など、郷土への誇りを育む活動に協力する。
- 積極的な情報発信：学校日より、ホームページ、ブログ等を活用し、学校の教育活動を可視化して信頼関係を深める。

7 努力点と具体策

(1) 学校・学級経営の充実

ア【問い】自ら学び、深く考える「知」の育成

～受動から能動への転換を図る授業改善と学習習慣の確立～

- **カリキュラム・マネジメントの推進**
 - ・ 全職員で「問い」を軸とした指導計画を作成・改善し、子供たちが自ら学びを創り出す授業を追求する。
- **「問い」のルール徹底**
 - ・ 毎時間、子供が「今日の問い（学習課題）」を自分の言葉でノートに書く習慣を確立する。
- **自学の「型」の習得と家庭連携**
 - ・ 学年段階に応じた自学ノートの進め方を提示し、家庭でも「どう思った？」と子供の考えに耳を傾ける啓発を行う。
- **ICTの効果的活用**
 - ・ 高学年を中心に、本やタブレットを使い「分からない」を自分で解決する探究の深まりを支援する。
- イ【挑み】粘り強く、最後までやり遂げる「体・心」の育成**
 ～失敗を恐れず、目標に向かって挑戦し続ける態度の育成～
 - **挑戦を支える可視化と表彰**
 - ・ 算数の習熟度や運動記録など、スモールステップの達成をグラフ化や表彰で可視化し、継続を促す。
 - **「失敗」を歓迎する校風づくり**
 - ・ 「失敗は挑戦の証」と価値付け、諦めそうな子への「あと一步」の励ましを全校で共有する。
 - **安全で整った教育環境の整備**
 - ・ 体育施設の点検・整備を計画的に行い、子供が安心して体力向上や活動に「挑める」環境を維持する。
- ウ【響き合う】互いを認め、礼儀を重んじる「徳」の育成**
 ～笑顔と挨拶で心をつなぎ、規律ある心地よい集団の構築～
 - **「先手挨拶・元気な返事」の実践**
 - ・ 相手より先に目を見て挨拶し、名前を呼ばれたら「はい」と返事をする指導を徹底する。
 - **「けじめ」のスイッチの意識化**
 - ・ チャイム前着席、立腰、時と場に応じた言葉遣い（敬語・丁寧語）を徹底し、集団としての規律を高める。
 - **地域・家庭との響き合い**
 - ・ 地域人材や学校応援団を活用した教育活動を推進し、子供を「地域の宝」として共に育む体制を強化する。
 - **人権教育をベースとした学級経営**
 - ・ 自分と他人の違いを良さとして認め合う活動を通じ、下級生が安心できる雰囲気づくりを推進する。
- エ 経営の基盤・効率化（PDCAと働き方改革）**
 ～教育の質を維持向上させる組織運営と環境整備～
 - **PDCAサイクルによる評価と改善**
 - ・ 学校評価（内部・外部）を活用し、数値目標に対する達成状況を公表・共有することで、学校づくりを推進する。
 - **学校働き方改革「1 Action 1 Try」**
 - ・ 毎週金曜日の定時退校日を遵守し、校務支援システム（スズキ校務、See-Smile）の活用で業務の効率化を図る。
 - **情報発信の充実**
 - ・ 学校・学級便りやブログ等を通じ、子供たちの「問い・挑み・響き合う」姿を積極的に発信する。

【学年別の重点アプローチ】

段階	重点項目	具体的な姿
低学年	みつける・やってみる・にこにこ	五感で発見し、まずは自分で挑戦する。笑顔の挨拶。
中学年	つなげる・ためす・たすけあう	友達の考えを繋ぎ、目標に向かって継続する。
高学年	深める・やり抜く・認め合う	探究を深め、困難を乗り越える。個性を尊重し合う。

(2) 学習指導の充実

ア 「問い」を軸とした学習者主体の授業づくりの推進

～「主体的・対話的で深い学び」の実現と複式学級への対応～

- **「問い」のルールの確立と定着**
 - ・ 毎時間、子供が「今日の問い（学習課題）」を自らの言葉でノートに記述する場を設定し、解決への見通しを持たせる。
 - ・ 単元の導入で「単元の問い」を共有し、見通しを持って粘り強く探究する「挑み」の姿勢を育む。
- **「委ねる」場面の設定と対話の充実**
 - ・ 教師が教え込みすぎず、子供に委ねる場や自己選択・自己決定の場を意図的に設定する。

- ・ 自分なりの考えとその根拠を明確にした上で、友達のと「響き合う（つなげる・深める）」協働的な学び合いを位置付ける。
- **複式学級指導の素地づくりと指導法の工夫**
 - ・ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる発問を工夫する。
 - ・ 「直接指導」と「間接指導」のメリハリをつけ、ガイドを中心とした自立的な学習の流れを構築する。
- イ **個別最適な学びの実現と ICT のベストミックス**
 - **ICT 機器の効果的・日常的活用**
 - ・ タブレット型パソコン、電子黒板、書画カメラを文房具として活用し、個々の考えの共有や視覚的な理解を促進する。
 - ・ プログラミング教育（算数・理科等）を計画的に推進し、論理的思考力を養う。
 - **多層的な支援とユニバーサルデザイン（UD）**
 - ・ 習熟度に応じた補充問題・発展問題を準備し、「挑み」がいのある課題設定を行う。
 - ・ 特別支援教育の視点を生かし、焦点化・視覚化・共有化といった UD の視点を取り入れた板書や指示を徹底する。
- ウ **確かな学力の定着と自学の「型」の形成**
 - **データに基づく組織的な改善**
 - ・ 知能検査、NRT、鹿児島県および全国学力・学習状況調査等の結果を多角的に分析し、全学年で課題解決に向けた具体的な「授業改善シート」を作成・実行する。
 - ・ 学習指導要領の趣旨を反映した良問や演習問題を活用し、思考力・表現力を問う活用力の向上を図る。
 - **家庭学習との連動（相似形の学び）**
 - ・ 「家庭学習の手引き」を活用し、学年段階に応じた自学ノートの進め方を指導する。
 - ・ 「自分で計画を立て、振り返る」サイクルを確立し、学校での「問い」が家庭での「探究」へつながる習慣を育む。
- エ **読書活動の充実と感性の育成**
 - **読書意欲の喚起**
 - ・ 個人目標達成 100%を目指し、学校図書館の利用活性化や「親子読書」を推進する。
 - ・ 多ジャンルの本に触れることで、言葉の力を蓄え、他者の考えと「響き合う」ための土台を作る。

【学習指導の重点アプローチ】

区分	重点項目	具体的な学習の姿
低学年	みつける・やってみる	五感を使って「はてな」を見つけ、図や言葉で表現する。
中学年	つなげる・ためす	友達の意見と自分の考えを比較し、多様な解法を試す。
高学年	深める・やり抜く	根拠をもとに論理的に思考し、納得解を導き出すまで探究する。

(3) **心を鍛える「響き合う」：互いを認め、礼儀を重んじる「徳」の育成**
 ～「一人一人を輝かせる」・人権尊重と自己指導能力の育成～

- ア **人権尊重の精神に基づく支持的風土の醸成**
 - **Mom（見つめる、思いをめぐらす、向き合う）の推進**：子供一人一人の内面を深く理解し、自己肯定感・自己有用感を育む学級経営を徹底する。
 - ・ 「響き合う」関係性の構築：互いの良さを認め合い、多様な考えを尊重し合う心を育てる。
 - ・ 道徳教育の充実：心のノートや多様な教材を活用し、自分事として考える道徳授業を推進する。
 - **「先手挨拶・元気な返事」の徹底**
 - ・ あいさつ4か条の継続：相手より先に目を見て挨拶し、名前を呼ばれたら「はい」と返事をする習慣を確立する。
 - ・ 心をつなぐコミュニケーション：挨拶を「形」だけでなく、相手を大切に思う「心」の表れとして価値付ける。
 - **「けじめ」のスイッチと自己指導能力の育成**
 - ・ 時と場の意識化：チャイム前着席、立腰、言葉遣いの使い分けを徹底し、学校生活における「スイッチ」の切り替えを習慣化させる。
 - ・ 規律ある集団行動：無言集合、機敏な動作を徹底し、「明日も来たい学校」の土台となる安全で落ち着いた環境を作る。
- イ **発達支持的生徒指導と教育相談の充実**
 - **いじめ・不登校の未然防止（「指導する」から「支える」へ）**
 - ・ 定期的な教育相談、実態調査等により子供の小さな変化を的確に把握し、早期発見・組織的対応に努める。
 - ・ 子供一人一人に「居場所」と「絆」を感じさせる意図的・計画的な集団活動を推進する。
 - **専門機関及び地域との連携**
 - ・ スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）との機動的な連携を図る。
 - ・ 中学校区での部会等を通じ、課題の共有化と一貫した指導体制を維持する。

ウ 感性を磨く読書活動とボランティア

- 豊かな感性の醸成：個人目標達成 100%を目指した読書活動や、親子読書を推進する。
- 公共心の育成：ボランティア活動や緑化活動を通じ、生命を大切にし、社会に貢献しようとする心を育てる。

エ 特別活動・学校行事の充実（響き合いの具現化）

- 子ども会・学級活動の活性化：自分たちの生活を自分たちで良くしようとする「話し合い活動」を充実させ、自治の力を養う。
- 清掃指導の徹底：師弟同行の清掃を通して、奉仕の心と「やり抜く」姿勢を育てる。

【心の教育：学年別アプローチ】

学年区分	努力の方向性	具体的なめざす姿
低学年	にこにこ挨拶	笑顔で挨拶・返事ができ、友達と仲良く過ごす。
中学年	たすけあう心	相手の気持ちを考え、自分の役割を最後まで果たす。
高学年	認め合うリーダー	互いの個性を尊重し、学校全体の規律を自ら創る。

(4) 気力・体力の充実と保健安全教育の徹底

ア 体を鍛える「挑み」：粘り強く、最後までやり遂げる「体・心」の育成

～「輝く生福っ子魂づくり」・挑戦支援と運動の日常化～

○ 挑戦支援と成功体験の可視化（「一生懸命がかっこいい」の実践）

- ・ スモールステップの設定：持久走やなわとび、算数の習熟度など、個々の目標に対する小さな「達成」をグラフ化や表彰等で可視化し、継続する意欲を高める。
- ・ 「失敗」を歓迎する校風：「失敗は挑戦の証」と価値付け、途中で諦めそうな子供への「あと一步」の励ましを全校体制で徹底し、粘り強い精神力を養う。

○ 教科体育の充実と運動の日常化・生活化

- ・ 主体的な学び：個々のめあて（問い）を設定し、十分な運動量を確保した授業を展開することで、運動好きな子供を育成する。
- ・ 一校一運動の推進：なわとび運動、チャレンジかごしま、早朝ランニング（ぐんぐんタイム）を学校全体で推進し、基礎体力の向上を図る。
- ・ 記録への挑戦：持久走大会や市陸上記録会等の諸大会に向け、自己ベスト更新を目指す指導を充実させる。

イ 保健安全教育の徹底と安全な環境づくり

○ 健康管理と生活習慣の確立

- ・ 基本的な生活習慣：家庭と連携した「早ね・早起き・朝ごはん」運動や「メディアストップ9」を推進し、心身の土台を作る。
- ・ 健康診断後の対応：治療率 100%を目標に、受診勧告後の徹底した事後指導（歯科・視力等）を行う。

○ 危機管理と安全教育の推進

- ・ 危機予測能力（KYT）の育成：自ら危険を察知し回避する力を育むとともに、安全面に十分配慮した運動環境の整備・点検を徹底する。
- ・ アレルギー対応：食物アレルギー子供の確実な把握と、緊急時の適切な対応（エビペン研修等）を全職員で共有する。

ウ 食育の推進と給食指導の充実

- 望ましい食習慣の形成：安全な運搬・配膳、衛生的なしつけを徹底するとともに、食育を通じて偏食指導や感謝の心を育てる。

【「気力・体力」重点アプローチ】

学年区分	努力の方向性	具体的なめざす姿
低学年	やってみる・できた！	いろいろな遊びや運動に挑戦し、動く楽しさを知る。
中学年	あきらめず・ためす	自分の目標を立て、苦しくても最後まで走り抜く。
高学年	やり抜く・高め合う	記録の向上に挑み、仲間と励まし合って心身を鍛える。

(5) 特別活動の充実

ア 学級活動・子供会活動の活性化（問い・響き合う）

○ 「問い」を深める話し合い活動の充実

- ・ 学級や学校生活の課題を自分たちで「問い」として設定し、解決に向けた合意形成を図る場（学級会・代表委員会）を充実させる。
- ・ 決まったことの実践を通じ、日常生活や学習への適応指導を徹底する。

○ 「響き合う」子供会・委員会活動

- ・ 子供会活動及び委員会活動において、異学年で知恵を出し合い、笑顔あふれる生福小を創るための主体的な活動を推進する。
- ・ 自主的な活動の中で、相手の良さを認め合い、学校への帰属意識を高める。

イ 学校行事の精選と質的向上（挑み・響き合う）

○ 目標に向かって「挑む」行事の工夫

- ・ 運動会や集約学習等において、一人一人が「挑み」がいのある個人目標を立て、そ

- の過程を価値付ける。
- ・ 行事の取組において「精選・改善・効率化」を図り、子供が自ら考え行動する時間を確保する。
- 「響き合う」心の醸成
 - ・ 異学年による交流を軸にし、上級生のリーダーシップと下級生の憧れの心を育む。
- ウ 集団行動の規律と清掃指導（挑み・けじめ）
 - 「けじめ」のスイッチと集団の美
 - ・ 無言集合・機敏な動作：始まりと終わりの時間を遵守させ、「時・場・礼」の区別を意識させる。
 - ・ 最後までやり抜く姿勢：すべての行動において取りかかりを早くし、時間いっぱい「挑み」続ける態度を養う。
 - 師弟同行の無言清掃
 - ・ 清掃の意義を理解させ、師弟同行で心を磨く無言作業を徹底し、公共心と根気を育てる。
- エ キャリアパスポートの活用（ふり返りと展望）
 - 成長を実感する「相似形のふり返し」
 - ・ 学級活動や各教科、学校行事等の活動記録を蓄積し、自分の変容を自覚させることで、新たな学習や生活への意欲（次なる問い・挑み）へつなげる。

【特別活動：学年別の具体的アプローチ】

学年区分	重点項目	具体的な活動の姿
低学年	やってみる・にこにこ	学級のきまりを守り、係の仕事に喜んで取り組む。
中学年	つなげる・たすけあう	友達と意見を出し合い、協力して学級の課題を解決する。
高学年	深める・やり抜く	リーダーとして学校行事を運営し、下級生の手本となる。

(6) 安全教育の徹底

- ア 安全な環境づくりへの「問い」と「挑み」
 - 自らリスクを予測し回避する力の育成（問い・挑み）
 - ・ 校内・通学路の安全点検：教職員による定期点検に加え、子供が自ら通学路等の危険箇所「問い（なぜ危ないか）」を持ち、安全な歩行に「挑む」意識を育てる。
 - ・ 防災教育の推進：防火防災対策に基づき、避難訓練を「自分たちの命をどう守るか」を考える探究の場とし、いざという時に落ち着いて行動する力を養う。
 - 交通安全教室と登下校指導（けじめ）
 - ・ 交通安全の徹底：交通ルールを「自分を守るためのけじめ」として捉えさせ、集団下校や交通安全教室を通して、実効性のある安全行動を徹底する。
- イ 地域・家庭と「響き合う」安全支援
 - PTA・地域との連携による見守り（響き合う）
 - ・ あいさつ運動と交通指導：PTAと連携し、挨拶を通して心を通わせながら安全を確保する。地域の方々への感謝の気持ち（響き合う心）を育てる。
 - ・ 情報の共有：通学路の安全情報を家庭・地域と迅速に共有し、学校・家庭・地域が一体となって子供の安全を守る体制を構築する。
- ウ 安全管理の徹底（組織的な挑み）
 - 校内安全点検の計画的実施：施設・設備の異常を早期に発見し、迅速に対応することで、子供が安心して学習や運動に「挑める」環境を保障する。

【「安全教育」学年別の具体的アプローチ】

学年区分	重点項目	具体的な活動の姿
低学年	みつける・やってみる	交通ルールや校内のきまりを知り、正しく歩行する。
中学年	つなげる・ためす	自転車の乗り方や危険箇所の意味を理解し、安全を確認する。
高学年	深める・やり抜く	リーダーとして下級生を安全に導き、防災の意識を自ら高める。

(7) 特別支援教育の充実

- ア 個別最適な学びを支える「問い」の保障（知）
 - ユニバーサルデザイン（UD）の視点による授業改善
 - ・ 全学級で「焦点化（めあての明確化）」「視覚化（板書の工夫・タイマー活用）」「共有化（ICTでの意見共有）」を徹底し、どの子も「問い」を持てる環境を整える。
 - ICTを「魔法の文房具」として活用
 - ・ 読み書きに困難がある児童への音声入力や読み上げ機能の活用、視覚支援としてのタブレット活用を推進し、学習の「自分事化」を支援する。
 - 個別の指導計画・教育支援計画のPDCA
 - ・ 全職員で計画を共有し、目標に対する達成状況を学期ごとに評価・改善することで、確かな学力の定着を図る。

- イ スモールステップで支える「挑み」の育成（体・心）
 - 「できた！」の可視化と挑戦支援
 - ・ 個々の特性に応じたスモールステップの目標設定を行い，達成状況をグラフや表彰で可視化することで，自己有用感を高める。
 - 「失敗を歓迎する」心理的安全性
 - ・ パニックや失敗を「学びのプロセス」として価値付け，落ち着いて再挑戦できるクールダウン・スペースの整備や，周囲の児童の理解（啓発）を促進する。
 - 「1 Action 1 Try」による自立支援
 - ・ 身の回りの整理整頓や時間管理など，個々の「苦手」に寄り添った具体的な行動目標を設定し，自立への挑戦を伴走する。
- ウ 多様性を認め合う「響き合う」心の醸成（徳）
 - 人権教育をベースとした「相似形」の集団づくり
 - ・ 「みんな違ってみんないい」という人権尊重の精神を基底に置き，互いの特性を良さとして認め合う「心のバリアフリー」を推進する。
- エ 交流教室・特別支援学級との「響き合い」
 - ・ 交流学习や共同学習を通じ，上級生が下級生を支え，互いに個性を尊重し合うリーダーシップとフォロワーシップを育む。
- オ Mom（見つめる・思いをめぐらす・向き合う）の実践
 - ・ 行動の背景にある子供の困り感を教職員が深く理解し，専門機関（SC・SSW）と連携して「居場所と絆」を保障する。
- カ チーム生福による組織的な支援（経営・連携）
 - 校内委員会を核とした「チーム支援」
 - ・ 担任一人で抱え込まず，全職員が「チーム生福」としてケース会議を実施し，組織的な指導体制を構築する。
 - 保護者・地域・中学校との「相似形」の連携
 - ・ 「家庭学習の手引き」に基づき家庭での支援歩調を合わせるとともに，中学校への切れ目のない支援（小中連携）を強化する。

【特別支援教育：学年別の具体的アプローチ】

視点	重点項目	具体的なめざす姿
問い（知）	みつける 安心感	自分の特性や「得意」を見つけ，先生や友達に助けてと言える（安心感）。
挑み（体）	ためす たすけあい	自分に合った学習法（ICT活用等）を試し，友達と助け合って活動する。
響き合う（徳）	深める 認め合い	自分の特性を理解して工夫し，互いの個性を尊重して役割を果たす。

(8) 教師の資質向上

- ア 「問い」を究める研修態勢の確立
 - 授業改善への探究（問い・挑み）
 - ・ 校内研修計画に基づき，「問い」を軸とした授業づくりを意図的・計画的に研究・推進する。
 - ・ 研究テーマを踏まえた授業改善を通じ，ICT（タブレット等）を文房具として活用した効果的な指導法の研修に「挑む」。
 - ・ 外部講師（指導主事）を積極的に招聘し，専門的な知見から自らの授業を客観的に見つめ直す。
 - データに基づく指導力の向上
 - ・ かがしま教員育成指標を活用し，自己の現状把握と目標設定（自己への問い）を行い，計画的な自己研鑽に努める。
- イ 小中一貫教育・地域と「響き合う」教育の推進
 - 中学校進学を見通した連携（響き合う）
 - ・ 小中連携・小小連携の取組（乗り入れ授業や合同研修）を推進し，義務教育9年間を通しためざす子供の姿を共有する。
 - ・ 互いの専門性を尊重し，情報を交換し合うことで，指導の連続性を確保する。
 - 信頼される教師集団
 - ・ 同僚と高め合い，笑顔と真心で子供・保護者・地域と接し，開かれた学校づくりに努める。
- ウ ICT活用能力と情報モラル（挑み・けじめ）
 - GIGAスクール構想の推進
 - ・ タブレット型パソコンの特性を生かした授業実践や，家庭学習・学びの保障のための活用方法について研究・実践する。
 - ・ 教師自身が情報モラルを正しく理解し，発達段階に応じた適切な指導を行う。

【「教師の資質向上」重点アプローチ】

視点	努力の方向性	具体的なめざす姿
問い（知）	授業を究める	「どうすれば子供の思考が深まるか？」と問い続け、学び続ける。
挑み（体）	新しい実践へ	ICT活用や小中一貫教育など、変化を恐れず新しい教育に挑戦する。
響き合う（徳）	同僚・地域と	真心をもって接し、組織として課題解決に当たる。

(9) 中学校・地域・家庭・関係団体との連携強化

ア 「学校運営協議会」を核とした地域連携の充実

～地域・社会と「響き合う」学校づくり～

○ 学校運営協議会の活性化と人材活用

- ・ 協議会を核として各種団体との連携や地域人材の活用を図り、「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ・ まちづくり協議会主催行事や地域行事へ積極的に参加・協力し、地域社会の一員としての自覚を育む。

○ 地域を元気にする双方向の取組

- ・ 地域やPTA種目を取り入れた運動会の実施など、郷土への誇りを育む活動を通して地域との絆を深める。
- ・ 学校日より、ホームページ、ブログ等を活用し、教育活動を可視化することで地域との信頼関係を構築する。

イ 「家庭・地域」と歩調を合わせる挑戦支援

～「挑み」を支える共通理解の醸成～

○ 「青少年育成の日・家庭の日」の啓発と実践

- ・ 第3土曜日（青少年育成の日）や第3日曜日（家庭の日）の趣旨を生かし、健全な育成活動や家族の触れ合いを促進する。
- ・ 子供会やスポーツ少年団活動へ積極的に協力し、学校外での子供たちの「挑み」を地域全体で支える。

○ 生活習慣の確立と「メディアコントロール」の連携

- ・ 家庭と連携した「早ね・早起き・朝ごはん」運動や「メディアストップ9」を推進し、学習や挑戦の基盤となる生活リズムを整える。
- ・ 家庭において「やっぴごらん」と背中を押し、子供の継続的な努力を支える協力を依頼する。

エ 「小中一貫教育」による指導の連続性と心の育成

～「問い・挑み・響き合う」9年間の学びの保障～

○ 中学校統合を見据えた連携強化

- ・ 中学校との合同研修や情報交換を密に行い、義務教育9年間を通じた「問い・挑み・響き合う」姿の共有と指導の連続性を確保する。
- ・ 「心の教育の日（9月）」における一斉道徳授業参観などを通じ、中学校・家庭・地域が一体となって道徳性の向上を図る。

○ 「地域の宝」を育む多層的な見守り

- ・ 子供を「地域の宝」として温かく見守る意識を共有し、挨拶や返事などの礼儀が「形」だけでなく「心」として身に付くよう連携する。
- ・ 関係機関（SC・SSW等）との連携を強化し、不登校やいじめの未然防止、子供の安心できる居場所づくりに努める。

【連携強化の重点アプローチ】

視点	努力の方向性	具体的なめざす姿
問い（知）	家庭での対話	「どう思った？」と子供の考えに耳を傾け、家庭を「探究の場」にする。
挑み（体）	地域の挑戦支援	失敗を恐れず目標に向かう姿を、子供会やスポーツ少年団等と連携して励ます。
響き合う（徳）	地域・中学校と	挨拶・返事・礼儀を重んじ、小中一貫した視点で「心を通わせる」交流を行う。